

〔第32回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

AD発症関連DMRの同定と その機能アノテーションへ向けて

再生再建医学研究部 組織再生再建研究室長

下田 修義 室長

2018年9月11日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

私たちはアルツハイマー型認知症（AD）の汎用性が高く、安定した検出が可能な核酸バイオマーカーを開発するために、バイオバンク保有のPiB-PET陽性AD患者と同陰性健常者の血液DNAのメチル化に差のある領域（DMR; differentially methylated region）を網羅的に探索し、これまでに100カ所のDMR候補を同定しました。現在その絞り込みを進めています。また並行して、CRISPR/Cas9のシステムを利用した安価かつ迅速なコンディショナルノックアウトマウス(cKO)作製法を4研究室横断的コラボレーションで開発しています。このCRISPR/Cas9 cKOシステムを、DMRをもつ遺伝子をはじめ、AMED臨床ゲノム・認知症班が同定を進めている日本人特異的なAD関連一塩基多型(SNP)の機能的アノテーション（臨床的意義付け）に利用できないかと期待しています。

座長：渡邊 研

連絡先：副所長室(内線5002)